

【発行者】新潟農業普及指導センター
 新津庁舎：0250-24-9624、津川分室：0254-92-0965

早生の出穂期は「**平年より 2 日遅い**」予想！
 適期・適量の穂肥施用で、収量・品質の確保を！

－ 重点事項 －

- ◎出穂期は**早生が「平年より 2 日遅い」、中生は「平年より 4 日遅い」**見込み。
- ◎中干し終了後は、
 - ①出穂 1 か月前までは**間断かん水**で草丈の急伸長抑制と根の健全化を図る。
 - ②**幼穂形成期以降は飽水管理**に切り替える。
- ◎早生品種は**適期・適量の穂肥施用**で、収量・品質を確保する。
- ◎コシヒカリは、出穂 40 日前頃に**ケイ酸質資材**を施用し、稲体の強化を図る。

1 生育状況（6 月 20 日現在）

〔草丈「短」、茎数「並」、葉数「やや遅い」、葉色「やや淡い」〕

品 種		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD 値)
コシヒカリ (調査点数 9)	本年値平均	33	374	8.3	37.5
	目標比・差	83%	99%	-0.6	-1.2
こしいぶき (調査点数 2)	本年値平均	32	456	9.0	41.8
	目標比・差	90%	97%	-0.1	+1.8
新 之 助 (調査点数 3)	本年値平均	28	306	8.2	38.2
	目標比・差	82%	75%	-1.3	-2.7

2 出穂期予測と穂肥時期・施用量のめやす（6 月 20 日現在）

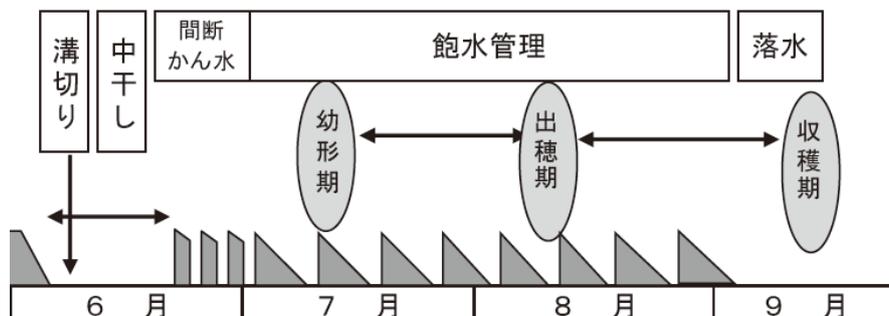
- (1) 早生品種の幼穂形成期及び出穂期は「平年より 2 日遅い」、中生は「平年より 4 日遅い」と予想される。
- (2) 出穂期は気象条件で大きく変動することもあるため、今後の情報に注意する。

品種名	出穂期 予想*	穂肥散布時期(出穂期前日数)		合計窒素量 (kg/10a)	
		1回目	2回目		
早生	新潟次郎	7/22	6/27～6/29(25～23)	7/8(14)	6
	ゆきん子舞	7/28	7/3～7/5(25～23)	7/14(14)	5～6
	こしいぶき	7/29	7/6(23)	7/15(14)	2
	五百万石	7/25	7/5(20)	7/13(12)	1～2
	わたぼうし	7/27	7/5～7/7(22～20)	7/15～7/17(12～10)	2～3
中生	コシヒカリ	8/10	7/23～7/26(18～15)	8/1(10)	1～3
	こがねもち	8/6	7/19～7/22(18～15)	7/27(10)	1～3

※稚苗を 5 月 5 日に植えた場合

3 中干し終了後の水管理 ～間断かん水から飽水管理へ～

- (1) 中干しは、田面に小ひびが入り、軽く足跡がつく程度まで行い、遅くても出穂の1か月前までに終了する。
- (2) 中干し直後は①出穂1か月前までは間断かん水を行い、②幼穂形成期以降は飽水管理（水がなくなったらかん水を繰り返す）へ移行する。
- (3) 異常高低温時やフェーンが予想される場合は事前に速やかに湛水し、急激な水分不足等による障害を防止する。



図：中干し以降の水管理

4 早生品種の穂肥施用のポイント ～遅れず適期に施用～

- (1) 早生品種の1回目の穂肥は、収量確保のため適期〔幼穂形成期頃（幼穂長1～2mm）〕を逃さず確実に実施する。
- (2) こしいぶきで生育量が以下の表より極端に大きく、籾数過剰による品質低下が懸念される場合は、遅め・控えめの穂肥対応とする。

表 こしいぶきの1回目穂肥時期の生育の目安

1回目穂肥時期 (予想)	草丈 (cm)	茎数		葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
		(本/m ²)	(本/株)		
7月6日	55～60	520～540	29～30(60株植え) 34～36(50株植え)	10.5～10.8	35～37

【参考】幼穂長の確認方法

【幼穂の長さを確認する】

〈その1 カッターなどで割る〉

〈その2 葉鞘をむく〉

出穂前日数(日)	幼穂長(cm)
24	0.1
20	0.2
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

※ 平均的な株から最も長い茎を抜き取り測定する。また、数株から採取し総合的に判断する。

5 コシヒカリのケイ酸質資材の施用 ～穂肥の前に体質強化～

- (1) 出穂40日前（6月下旬頃）～1回目穂肥時期までのケイ酸施用で、根の健全化により稲体活力が高まり、異常気象下でも登熟・品質向上が期待できる。

※フェーンや強風時には湛水しましょう！～气象台の情報に留意してください～